

寺社を巡る会

活動記録書

開催日： 令和3年3月4日(木)天候 晴	開催テーマ： 「釜利谷史跡散策-Ⅱ六国峠の道歩く」
開催場所：金沢区	記入者：横山 美智男
参加人数： 会員 男 17名 女 7名 計 24名 ビジター 男 0名 女 0名 計 0名 合計 24名	
実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など）： コース:京急金沢文庫駅(集合)～白井と白井ヶ崎～正法院～谷津浅間神社～能見堂の喚鐘～谷津の庚申塔～能見堂跡～谷津関ヶ谷不動～不動池～太寧寺～京急金沢文庫駅(解散)	
<p>横浜南部の円海山緑地からは相模、武蔵、安房、上総、下総、伊豆の六カ国を望むことができる。金沢文庫駅西口に集合し南に出る。かつて谷津川にかかる「白井橋」があつた場所を通り、右に行つた辺りが「白井ヶ崎」で崖下に金沢七井の一つ白井があつた。かつては鉱泉宿があり栄えていた。</p> <p>更に進むと右手に正法院がある。約1200年前、弘法大師が井戸を掘り加持すると水が赤くなり、その水で不動明王像を描き護摩祈祷をした。日照りや疫病に苦しんでいた村人は救われ、その不動明王像は秘仏とされている。裏山に滝の不動明王が祀られ、毎年1月28日の初不動は賑やかである。境内右手に小さな井戸がある。金澤七福神では福祿寿を祀っている。</p> <p>少し戻り左に行き谷津浅間神社の下に到着。口伝によれば、寛仁年間(1017-21)に藤原道長が能見堂に来遊したおり、東方にお椀を伏せたような山があつたので「塗桶山」と名付け、富士浅間大菩薩を勧請したという。祭神は木花咲耶姫(コノハナサクヤヒメ)で、安産の守護神として崇められている。</p> <p>京急線踏切の向こうに谷津消防団の火の見櫓が見える。この鐘は能見堂から持ってきた釣鐘で、刻字から「江戸深川八幡町たみや利右衛門同茂兵衛」が延享2年(1745)、二人の女性の十三回忌の追善のため寄進したと推察できる。「西村和泉守作」と作者名も刻まれている。</p> <p>山道に入る手前に3基の庚申塔が並んでいる。庚申塔は、庚申信仰に基づき村に災いが入って来ないように村境や辻に建立された。3基の庚申塔は宅地造成工事の際に集められたようだ。</p> <p>六国峠入り口の看板から山道に入り能見堂跡に向かう。交通の要所でもあつた能見堂は、眺望がすばらしく、心越禅師が能見堂に来て「金沢八景」の漢詩を詠んだ事で有名になった。江戸の太平の世に、金沢の地は行楽地として賑わうようになる。江戸の商人達が建てた「金澤八景根元地」の石碑が残る。平安時代に巨勢金岡という絵師が松の根元で海山の絶景を描こうとしたが、余りの景観に終に筆を捨てたとされる。更に藤原道長が絶景を愛でて草庵を結び、これが能見堂になったとされる。いずれも箔付のための説話とみられる。能見堂は明治2年(1869)に失火で全焼し、筆捨松も大正9年(1920)に台風で倒れ、残った根も戦争中に松根油のため掘り取られ、説話を伝えるものは残っていない。緑地には能見堂の柱跡がコンクリートでマーキングされている。</p> <p>更に山道を進むと谷津関ヶ谷不動に出る。もとは染井谷の滝の辺りに有つたが宅地開発で昭和62年(1987)に遷座された。毎年1月28日の初不動祭りが今も続いている。参道の急な石段を注意しながら下り、不動池に出る。</p> <p>不動池は野鳥の集まる緑豊かな憩いの場となっている。かつて、釜利谷の開発で出た膨大な土砂を、金沢地先埋め立てに使用するために、トンネルを掘り、ベルトコンベアーで運んだ跡である。</p> <p>住宅街を抜けて太寧寺に着く。本尊は薬師如来。かつては、室の木にあつたが、昭和18年(1943)に、海軍追浜飛行場拡張のため強制的に遷された。源頼朝の異母弟である源範頼の墓とされる五輪塔がある。赤ひげ先生と呼ばれた江戸の医師・小川笙船の墓もある。金沢文庫駅まで戻り本日の探訪終了。</p>	
参加者の状況・意見など： 山道が多いコースであつたが、春の花も目に付く季節となり気持ちよく無事に探訪できた。また山道が負担になりそうな方のため迂回する班を設け4人が参加、適当な処置と好評だった。	
次回の予定： 令和3年4月1日(木)10時 京急富岡駅集合 テーマ「富岡の古道を歩いて寺社巡り」	